

単元名 5 論理を捉えて 一音読を楽しもう 月夜の浜辺

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像することができる。
 (2) 詩の中の反復表現、対句表現、反語表現に着目し、その効果を考えることができる。
 (3) 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を朗読しようとする。

標準的な展開例

11210214_001

【準備等】国語指導CD、再生機

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。 ○「月夜の浜辺」をイメージし、本時の学習課題をつかむ ★言葉の響きやリズムを味わいながら朗読してみよう。 ○詩を読み、全体のイメージをつかむ。 ○詩を声に出して読む。 ○表現に着目し、その効果について考える。 ○言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。 ○学習を振り返る。 ・詩のどのような表現に着目して作者の思いを捉えたかを考える。 ・朗読して感じたことを文章にまとめる。	・国語指導CDを活用してもよい。 ・口語定型詩であるが、文語で書かれていることを押さえ、読み方に注意させる。 ・反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像させる。 【評】詩の表現の効果を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・七音の繰り返しのリズムや反復の効果を味わわせ、情景や心情を想像しながら読ませる。 ・時間があれば、振り返りをグループで交流させてもよい。 【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【備 考】

社会生活で求められる表現は、多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠の働きに注目して、論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。

また、論理的な表現では、一方的に自分の意見を述べるのではなく、他者の立場も尊重することで、多様な考え方に触れることができる。また立場の違う考え方からの反論を予想することで、論理に深みが増し、説得力も高まる。根拠の確かさとともに、そうした視点からも、論理の展開のしかたを確認させたい。

討論会は、いろいろな立場の考え方を知ること、自分の考えを深めたり、広めたりすることに役立つ。それは、自身の言語能力を高め、今後の学級・学校での話合いに活用することができるであろう。また、「根拠の適切さを考えて書こう」では、文章構成を学ぶ。自分の立場を最初に述べ、意見や根拠を述べていくことも、話合いや意見文を書くには必要なことである。